



下田市議会だより

9月
令和3年
(2021)
No.79

- P2 新型コロナウイルス感染症対応指針の制定について
- P3・4 コロナ対応増額補正予算を可決
- P5~7 市政を問う一般質問
- P8 議案等の審議結果

「岸壁の鳥居」

議会活動レポート

下田市議会議員新型コロナウイルス感染症対応指針の制定について

下田市議会議員2名が新型コロナウイルス感染症に感染したことを受け、8月10日、議会全員協議会を開催し、議員が取り組むべき新型コロナウイルス感染症への感染予防対策や会議の対策、新型コロナウイルス感染症に感染又は感染の疑いがある場合の具体的な対応について協議し、新型コロナウイルス感染症対応指針を定めました。

特に、情報の公表につきましては、新型コロナウイルス感染症により、個人や社会に与える影響を最小限にとどめ、新型コロナウイルス感染者及び濃厚接触者等に対する不当な差別、偏見、誹謗中傷等が生じることがないように、正確な情報を提供することを目的としております。

下田市議会は、同協議会において改めて13名の議員一人ひとりが、常に行動の模範となることを全会一致で確認しました。

新型コロナウイルス感染症対応指針(抜粋)

公表

(1)議員が感染した場合、感染拡大のリスク等を総合的に勘案し、次のうち、必要な情報を公表する。

- ①氏名 ②発症日 ③発症時症状 ④陽性確認日
- ⑤濃厚接触者 ⑥推定感染経路 ⑦行動履歴
- ⑧公衆衛生上の対策
- ⑨その他、特に必要と認められる情報

(2)公表の方法

静岡県が下田市における新型コロナウイルス感染症に関する情報の公表を行った後、次の方法により速やかに公表する。

- ①下田市ホームページへの掲載
- ②報道機関への情報提供

女性及び若者の議会への参画について

下田市の議会のありかたとして、20代から40代の若者や女性の議員を増やしていくことが大切であると意見が出されました。実現に向け、各自治体の議員構成の資料を参考に現状分析、問題点、今後どの様にしていけば良いのかが協議されました。

静岡県内の市町議会で女性議員がいないのは

下田市、長泉町、松崎町、南伊豆町、河津町の5市町であり、女性、若者が家族の理解、支援者の協力、経済的な問題が議会へ参画出来ない理由としてあげられました。今後は下田市議会議員有志で検討会を作り女性及び若者の議会参画が進むように協議していきます。

議会運営のICT化について

環境負荷の低減と議会運営の効率化のためにペーパーレス化、ICT化をめざす提言がなされ、実現するにあたっての問題点、進め方が協議されました。

ペーパーレス化により議会の膨大な資料が一つの端末に収まり随時検索して見ることが出来る

ことや、ICT化、デジタル化により災害時の安否確認、災害状況の共有などの活用事例が紹介され、進めていくためにはデジタル端末を使いこなすための議員研修をしていくことも提案されました。今後は下田市議会議員有志で検討会を作りペーパーレス化、ICT化を進めていきます。



総務文教委員会所管の主な
補正予算項目をご紹介します。



地域振興 自治総合センターコミュニティ助成金補助金 230万円

自治総合センターコミュニティ助成制度※を活用し、箕作区の子供神輿の整備に230万円を補助するものです。

※自治総合センターコミュニティ助成制度：宝くじの社会貢献を目的とし、地域のコミュニティ活動に必要な備品や施設整備、地域の安全や文化活動支援等に助成を行い、地域のコミュニティの活性と地域社会の健全な発展、住民福祉に寄与するための助成制度です。

防災対策 要避難者等宿泊施設利用補助金 63万円

コロナ禍における避難所の3密対策推進と市内宿泊施設利用促進が目的で、避難情報発令時に避難指示区域の居住者が市と協定を結んだ宿泊施設を利用した場合に1人1泊3,500円(上限2泊7,000円)を補助するものです。国の「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を活用した事業です。

※詳しくは防災安全課まで TEL：0558-36-4145

教育振興 小・中学校修学旅行キャンセル料補助金 144.9万円

新型コロナウイルス感染拡大の影響で市内の小学校の修学旅行が中止や延期になった場合の保護者のキャンセル料等負担軽減措置として補助金49万円、同じく市内中学校分として補助金95.9万円が予算計上されます。

児童福祉 子育て世帯生活支援特別給付金 1,210万円

困窮するひとり親世帯に加え、ふたり親の非課税世帯、コロナウイルスの影響で収入が急変し非課税世帯と同様の事情にあると認められた世帯にも子供1人につき5万円を給付するものです。

新庁舎等建設推進事業 稲生沢中学校耐力度調査 500万円

新庁舎建設予定地と隣接する稲生沢中学校の校舎・体育館・技術棟の耐力度調査を実施します。元々の設計上の構造耐力と、経年劣化による健全度、地盤環境など総合的に調査するもので、公共施設の有効利用検討と改修計画の基礎資料となるものです。

新庁舎建設予定地と稲生沢中学校の位置図と施設概要

【施設概要】

施設名	完成年	構造	階数	経過年数
校舎	1982年	鉄筋コンクリート	4階	39年
体育館	1986年	鉄筋コンクリート	2階	35年
技術棟	2005年	鉄筋	1階	16年

調査対象施設

校舎	2,934㎡
体育館	1,159㎡
技術棟	230㎡



【写真】審査に慎重を期すため稲生沢中学校の現地視察を行いました。





産業厚生委員会所管の
条例・主な補正予算項目をご紹介します。



産業厚生委員会

下田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について

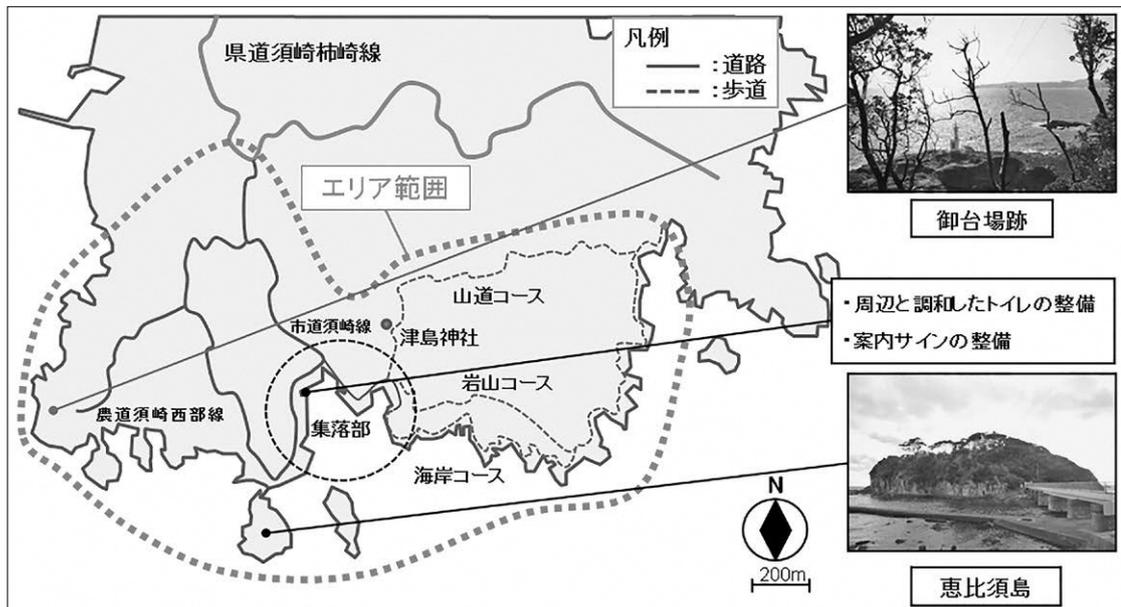
新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減少した被保険者等にかかる国民健康保険税について、令和2年度に引き続き令和3年度も減免措置を継続するための条例改正です。

保険税全額免除	主たる生計維持者が死亡又は重篤な傷病を負った世帯の方
保険税一部減額	主たる生計維持者の収入減少※が見込まれる世帯の方

※要件及び減免額等詳しくは、市民保健課(国保年金係)まで TEL：0558-22-3922

令和3年度下田市一般会計補正予算（第3号）

公共交通	路線バス交通系 IC カード導入事業費補助金【新規】	180万円
市内を運行する路線バス12台に対して、新型コロナウイルス感染予防に必要な非接触型交通系 IC カード設備の導入を支援するものです。		国臨時交付金 150万円
保健衛生	新型コロナワクチン接種事業	6,784万円
新型コロナウイルスワクチン接種に関して、国の方針に基づく65歳以上の接種加速化及び64歳以下の接種費用の一部を追加するものです。(医師・看護師・医療機関への謝礼、コールセンター委託、接種券電算処理委託他)		国・県補助金 10 / 10
商工振興	伊豆 'S ライフスタイル推進事業【新規】	1,760万円
余暇を楽しみながらテレワークする「ワーケーション」を推進することにより、移住者や新規事業、企業進出などによる関係人口の創出につなげるため、各事業を実施するものです。		県補助金 2 / 3
道路維持	先導的官民連携支援事業調査業務委託【新規】	1,551万円
市が主体となり、市と県が管理する道路等の土木インフラの維持管理について、包括的に民間事業者へ委託することで、維持管理コストの縮減や土木系技術職員不足等の課題解決への可能性について調査検討するものです。		国庫補助金 10 / 10
観光施設	須崎漁港周辺観光エリア整備工事他	2,351.6万円
須崎漁港周辺観光地エリア景観計画にもとづいて、恵比須島の再整備と御台場跡までの歩道や御台場周辺の整備、案内看板等の設置を実施するものです。		県補助金 1 / 2



6月議会総括

下田市議会6月定例会は令和3年6月9日から15日までの7日間の会期で開催され、5人の議員が一般質問を行いました。

提出議案は、報告2件、人事案件3件、条例1件、補正予算1件、合わせて7件の提出議案の審議が行われました。

一般会計補正予算は歳入歳出それぞれ2億4,024万3千円を追加し、原案のとおり可決されました。主な内容は、新型コロナワクチン接種を加速化させるための費用、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で、新しい生

活、働き方を推進していくための費用が主なものです。

一般質問では、広域ごみ処理問題、黒船祭の中止、今夏の海水浴場の開設について、保育所における地震防災対策、女性の「生理の貧困」などの問題点について質問されました。特に女性の生理の貧困問題は県でも問題視し、結果として市も支援の仕組みを制定しました。コロナ対策とそれに伴う生活に困窮する人の議論ができたことは記憶に残る議会となりました。

市政を問う一般質問



スマートフォンQRコードを読み取ると各議員の一般質問※を閲覧できます。

※一般質問とは？

本会議で議員が市当局に対し、市政全般にわたる事業の執行状況や将来の方針を問い正したり、政策提言をしたりすることを指します。

議員の重要な役割である行政への監視機能と政策提案の両方を発揮できる場であり、議員活動の根幹といえます。

中村 敦 議員

広域ゴミ処理・新庁舎建設・海水浴場・黒船祭中止



広域ゴミ処理計画と再資源化推進、持続可能な循環型社会のまちづくり

将来にわたり持続可能なゴミ処理サービスの提供について、また循環型社会への転換を図るべく、広域ゴミ処理計画を強力に推進する必要があると考え、現状と推進方法について当局の方針を問いました。また「世界一のSDGsのまちづくり」に向けて市内からゴミ減量・リサイクルに努めるよう要望しました。①広域ゴミ処理のメリットとデメリット②排煙や臭気の最新事情と近隣からの苦情等実態③分別と再資源化の3町協働の取り組み④海洋プラスチック

新庁舎建設事業の見直し設計方針とスケジュール

市民の声は「安く」、「早く」、「安全に」。予算縮減と浸水対策を含む新庁舎建設事業の進捗状況と今後の方針について問いました。①最新スケ

ジュールと国道からの入り口問題②新庁舎機能再検討調査業務委託③身の丈に合った予算とは今夏の海水浴場開設と運営

コロナ禍の昨年の反省と長年の懸念である違法業者対策を踏まえれば市が先頭に立っての運営が必要と考え、地元区の意向を踏まえた今夏の海水浴場の運営方法について、また浜地でのサービス提供と違法業者対策について問いました。①海水浴場開設発表とコロナ禍の運営基準、そのスケジュール②地元区による夏期対支部運営③コロナ禍のライフセーバーの運用基準と来遊客の安全確保④市民の理解と協力の取り付け
黒船祭中止に伴う花火と代替イベント

市制50周年記念事業とも絡めた秋の、花火大会と同時期の開国市代替イベントの開催とその予算措置を、市民の声として要望しました。①未執行予算の使い方②市制50周年記念式典と同時期開催の、花火と代替イベントの開催

渡邊照志議員

ヤングケアラーの実態と支援について



家庭内でのケアによって自分の時間がなく、また誰にも相談したことの無い子どもは60%を超えています。また家族のケアを担っている小学生もいて、学業や友人関係に影響していると言います。

子どもに一番近い学校の先生は、この実態について家庭内のことで見えにくい。子どもたちの多くは、幼い頃から家族の介護やケアをしているため、その生活が当たり前となり、自分達の生活を他の家庭と比較することが出来ず苦しくてもSOSが出せないのではと言います。

そして学校でも子ども達の家族についての相談は受けるが、ヤングケアラー*という視点がないため、子どもの悩みに対し、踏み込むことが難しいと言います。この点について、下田市での実態の把握と支援について質問しました。

政府が実施したヤングケアラーのアンケート結果抜粋
 全国の公立中学校2年生（1000校） 17人に1人
 全国の全日制高校2年生（350校） 24人に1人
 回答数 約 13,000人

ケアの対象

	兄 弟	父 母	祖父母
中学2年生	61.8%	23.5%	14.7%
高校2年生	44.3%	29.6%	22.5%

ケアの頻度

	ほぼ毎日	週3日~5日	週1~2日
中学2年生	45.1%	17.9%	14.4%
高校2年生	47.6%	16.9%	10.4%

ケアのため出来ていないこと

	自分の時間	勉強の時間	睡眠の時間
中学2年生	20.1%	16.0%	8.5%
高校2年生	16.6%	13.0%	11.1%

*ヤングケアラーとは「家族にケアを必要とする人がいるために、家事や家族の世話をしている18歳未満の子ども」のことです。

沢登英信議員

南伊豆地域広域ごみ処理事業について 他3件



1. 南伊豆地域広域ごみ処理事業について

「下田市、南伊豆町、松崎町、西伊豆町の処理場は取り壊し、1日69t、燃やせる焼却施設と

1日4.1t、処理できるリサイクル施設を下田市清掃センターに併設する。」と令和3年2月19日市議会全員協議会に首長会議の決定として報告されました。

①敷根地域は、認定子ども園・中学校もあり、住宅が広がっている人の密集地です。この敷根の清掃センターに3町のごみを集め燃やすことは、排ガス等により子どもや住民に健康不安をもたらすとして、反対の立場で質問しました。

②この広域ごみ処理事業は、環境省のすすめている広域化の目的にも沿っていません。ごみの少量化・資源化も脱炭素化、エネルギーセンターとしての役割もない計画であること。

③1市3町には、焼却場があり稼働しています。しかし、下田市、南伊豆町、松崎町は最終処分場を持っていません。広域でなすべきことは最終処分場の建設であること。

④使える焼却炉を廃止してまで広域新炉を敷根に建設する必要がないこと。下田市と南伊豆町、松崎町と西伊豆町の枠組みが妥当であること。

⑤何より、ごみの分別、資源化計画を業者に作ってもらうのではなく、自ら作ることを求めました。

2. コロナ禍での海水浴場の運営について

3. 下田市振興公社の活性化と消費税の節税について

4. 市内分譲地の管理と行政指導について

市内分譲地が造成され30年余が経過する中で防火対策、土砂災害対策や道路管理、行政サービス等の実態について質問した。

鈴木 孝 議員

下田保育所の地震防災対策・「生理の貧困」問題



下田保育所における地震防災対策及び今後の運営について

下田保育所は、南海トラフ地震による津波の浸水域に建てられており、津波発生時に下田幼稚園まで避難する計画になっています。避難訓練を実施していると思うが懸念される点があり質問しました。

1. 津波による浸水開始時間は地震発生から何分後と想定しているのか
2. 避難路に面する建物の崩壊や八幡神社から幼稚園までの崖の崩壊、落石があった時の避難行動計画はどの様になっているのか
3. 避難に対し保護者の行動、避難後の子供の受け渡しはどの様な計画になっているのか

「生理の貧困」の問題に対する下田市の対応について

「生理の貧困」とは、生理用品を買うお金がない。また利用出来ない。利用しにくい環境に

あることを指し、格差が広がっている先進国においても問題となっている。日本でも問題になっており、5人に1人の若者が金銭的な理由で生理用品を買うのに苦労した等のアンケート結果が出ています。また購入出来ないだけでなく、ネグレクトにより親等から生理用品を買ってもらえない子どもがいるとの指摘もあります。隠れた貧困であるこの問題に光があたり、社会全体で向き合おうとする流れが加速しています。日本全国の自治体でもこの問題に対応し始めています。下田市も生理用品の防災備蓄を進め、備蓄した物を要望のある方に配布していくことで災害時の備蓄品の拡充にも繋がる。将来的には学校のトイレに生理用品を置くことが出来れば、家庭環境に関係なく苦労することが無くなると思います。下田市として「生理の貧困」の問題をどのように把握し、今後、対応していくのか質問しました。

江田 邦明 議員

道路及び河川の維持管理・持続可能な観光振興



道路及び河川の維持管理と行政代執行

市民の生命と財産を守るため、市が長年抱える問題であり、早急な対応が必要な次の事項について聞いた。①災害発生の予防策を計画実施するにあたり重要な、地区からの公共施設修繕要望事項の現状と対応、打開策について。②市が考える行政代執行の対象と、稲生沢川河口及び下田内港の放置船・廃船・沈下船に対する県の対応について。③下田市空き家等対策計画に基づき、特定空き家等の現状と行政代執行を

めた対応について。

持続可能な観光振興に向けた独自財源の確保

今年度スタートした「第2次観光まちづくり推進計画」を確実に推進していくため、観光振興に特化した新規財源の確保とそのロードマップについて聞いた。①新規財源（ふるさと応援寄附金、協力金、分担金や負担金、入場料や利用料、法定外目的税など）の確保と方針について。②既存の目的税（都市計画税・入湯税）の使途と公表状況、課題について。③既存の目的税や法定外目的税、宿泊税等に関する他自治体の調査研究、検証について。

法定外目的税の徴収等について、現在のコロナ禍でその様な議論をするべきではないという意見も多くあるが、コロナ禍後の将来に相応しい観光振興を見据えたとき、今誰かが公の場で一石を投じる必要があると考え、このテーマについて聞いた。





発行 下田市議会
編集 広報委員会
住所 下田市東本郷二丁目5番18号

TEL 0558-22-2220
FAX 0558-27-1511
E-mail: gikajin@city.shimoda.lg.jp

広報委員会
委員長 江田邦明
副委員長 中村敦
委員 鈴木孝 佐々木清和 進士濱美

議会HP



令和3年6月定例会 審議結果

番号	議案件名	審議結果
報第5号	令和2年度下田市一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について	議決不要
報第6号	令和2年度下田市下水道事業会計予算繰越計算書の報告について	議決不要
議第35号	監査委員の選任について	同意
議第36号	下田市固定資産評価審査委員会委員の選任について	同意
議第37号	教育長の任命について	同意
議第38号	下田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議第39号	令和3年度下田市一般会計補正予算（第3号）	原案可決
	静岡県後期高齢者医療広域連合議会議員選挙	
	常任委員会の閉会中の継続調査について	

《賛否の分かれた議案》

(○：賛成 ×：反対 欠：欠席 -：退席)

番号	6月定例会議案件名	江田邦明	中村敦	鈴木孝	渡邊照志	矢田部邦夫	佐々木清和	滝内久生	小泉孝敬	進士濱美	橋本智洋	進士為雄	大川敏雄	沢登英信	審議結果
議第35号	監査委員の選任について	○	○	○	○	○	×	○	-	×	/	○	○	×	同意
議第39号	令和3年度下田市一般会計補正予算（第3号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○	欠	×	原案可決

※議長（橋本智洋）は、可否同数の裁決以外は、採決に加わりません。

表紙写真の紹介



静岡県立下田高等学校
22HR 土屋 遥輝さん

青い空、青い海、そこに立つ赤い鳥居のバランスに気をつけながら撮影した一枚です。

撮影場所
下田市白浜神社

今号より、静岡県立下田高等学校写真部の皆様にご協力をいただき、表紙写真を提供いただくこととなりました。未来を担う高校生が、新たな視点で下田市をとらえ、その思いを写真に映し出していただくことを期待しております。市民の皆様も高校生が撮影する写真にご注目ください。



編集後記

「議会だより」は「下田市議会だより」と名を変え、本号から誌面を大幅リニューアルいたしました。これまでの議会だよりでは予算を主に構成されていた為に議会の活動が伝わりにくく、また文字が小さく数字が多い紙面でした。今回の改訂にあたっては「開かれた議会」への改革の一環として、議会の様子や議員の活動が垣間見えるような紙面に改変していこうというものです。

併せてホームページに公開される会議録（議会の議事録）の一般質問部分も、議員毎にファイル化し検索しやすくなりました。これからさらに市民の皆さまの意見を取り入れながらより良い紙面にしていきたいと考えております。感想やご意見などお寄せいただきたく、今後とも「下田市議会だより」をよろしく願いいたします。

(中)

下田市議会の活動に役立てるため、市民の皆様の声を電話・メール・FAXで右記（欄外記載の連絡先）までお寄せください。